

GREENPEACE

Annual Report

2014年 年次報告書

国際環境NGOグリーンピース
の取り組み



www.greenpeace.org/japan

©Jeremie Souteyrat / Greenpeace





Message

2014年を振り返り 事務局長からのメッセージ



皆様からのあたたかいご支援、ご協力のおかげで、2014年もグリーンピース・ジャパンは皆さまとともに重大な環境問題に取り組むことができました。

特に、今年から開始したミツバチなどの激減の原因とされるネオニコチノイド系農薬の国内規制を目指したキャンペーンや、原発の再稼働を止めるための活動には、多くの方にご参加いただきました。おかげさまで、ネオニコ系農薬の規制緩和、原発の再稼働の両方において、世論の高まりをうけてその動きを遅らせることができています。スタッフ一同、心より感謝申し上げます。



「集团的自衛権にレッドカード!」(集团的自衛権行使容認への反対行動、7月)。

しかし、秘密保護法の施行、憲法解釈変更による集团的自衛権の行使容認、沖縄県辺野古への新基地建設、TPP推進、原発再稼働と輸出、温室効果ガス削減目標の引き下げ等、安倍政権下で進められた様々な政策は、環境、平和、民主主義という私たちの生活の根幹を確実に悪化させています。2014年12月に行われた衆議院議員選挙の結果を考えると、2015年以降の日本社会の行方が非常に心配です。

そんな国レベルでの不安をよそに、地域レベルでは、さまざまな明るい取り組みが広がっています。地域社会に根差した自然エネルギーや、有機農業をベースとした町づくりは、これまでにないスピードで着実に根付いてきています。名護市長選につづき、沖縄県の県知事選挙、そして衆議院議員選挙では、辺野古への基地建設反対候補が当選しました。市民の政治参加がもたらした結果だと思えます。

2015年は、地域社会からはじまる小さな革命が、筍のように力強く、かつ無数に育つ年になるのかもしれませんが、グリーンピースもその一翼を担いたいと考えます。

国際環境NGOとしての強みを生かし、地域レベルでの活動に従事されている多くのサポーターさんや一般の方々と世界中の成功例などを共有し、その成功に向けて協力していきます。また、大手企業のサプライチェーンの見直しを迫る活動にも力を入れ、エネルギー、農業、林業、水産業を主なテーマとして、より環境に影響のない生産、消費活動が当たり前になるアジア市場の形成をめざしていきます。

最後に、2015年は広島・長崎に原爆が投下されてから70年という節目の年となります。この節目の年だからこそ、平和を脅かす政治の動きに歯止めをかけなくてはなりません。グリーンピースは、平和の分野にも積極的に取り組みます。

2015年もグリーンピース・ジャパンの活動へのご参加・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

グリーンピース・ジャパン
事務局長 佐藤潤一

佐藤 潤一

Climate & Energy

国際性と専門性を生かし、 原発事故の教訓を日本全国へ、世界へ

東京電力福島第一原発事故から3年。グリーンピースは事故直後から継続して放射能調査を実施し、国際環境NGOとしての強みと原発事故の教訓を生かし、「自然エネルギー100%の日本」の実現を目指して活動を続けています。

「忘れられるのが怖い」「海外にも伝えてほしい」——原発事故の被害にあった福島の方々とお会いするたびにお聞きする声に何とか応えたい。原発事故から3年前にした2月、ドイツ・フランス・ポーランド・韓国・インドの5カ国から、自国で原発反対を訴える市民を福島に招き、被害者と直接対話する機会をもちました。3月には、福島の方々の声を映像に収めた動画をインターネットで公開しました。また、各国から来日した参加者が、自国に帰ってからテレビに出演したり講演会を行うことで、「福島の証言」を世界に広めるきっかけを作ることができました。



「海外の市民活動家と福島の方々」 ©Greenpeace/Alex Yallop

また、脱原発と自然エネルギーの飛躍的導入を求め、原子炉を製造している日立製作所、東京電力、関西電力の株式を継続して保有し、日立及び東電の2014年株主総会では会場で経営陣に直接質問をし、回答を得ました。

10月には、福島県での放射線調査を行い、現状を国内外に発信。福島第一原発から、いまだ全村避難が続く飯館村との距離が、九州電力の川内原発と鹿児島市とほぼ同じであることから、人口60万人の県庁所在地である鹿児島市が全市避難になる危険性を指摘し、鹿児島県に川内原発再稼働の再考を申し入れました。

■ 主な発行物 / 報告書



「太陽ふりそぐ緑の大地と青い海、恵み豊かな九州を子どもたちに」リーフレット (写真左)

「日本全国で『稼働原発ゼロ1年』達成」ブリーフィングペーパー



©Masaya Noda / Greenpeace

再稼働審査が最優先で進められている九州電力・川内原発の再稼働にブレーキをかけるため、専門家と地元住民とともに原発事故時の避難計画について実態調査を6月に実施。その結果、原発事故と津波などの複合災害が考慮されていないことが判明しました。調査結果は、「とめよう再稼働」署名14,360筆とともに、鹿児島県知事宛に提出し、3つの地元テレビ局と主要地元紙が掲載。さらに、この調査により、複合災害を考慮していない原発避難計画の問題点が地元議会で取り上げられ、全国ニュースでも言及されるなど、各地の原発で同様の視点が注目されるきっかけにもなりました。その後も鹿児島市の市民と連携しながら活動を展開。当初2014年7月にも再稼働と言われていた川内原発は、2015年2月現在も停止中です。



原発事故時、集合場所に指定されている小学校は海拔4.2メートル。複合災害が考慮されていないことを明らかにした。



世界初! 「稼働原発ゼロ1年」達成、次のステージへ

高田久代 (気候変動・エネルギー問題)

2014年9月15日、日本の原発が全て止まっている「原発ゼロ1年」を達成。これほど大規模で急速に「稼働原発ゼロ1年」が達成された例は他にない、世界初です。また、脱原発・自然エネルギー転換の先進国であるドイツのグリーンピースと3年間の共同プロジェクトを立ち上げることが決まり、2015年から本格始動させます。ぜひご期待ください。

Oceans

マグロもウナギも次世代へ サステナブル・シーフードの需要をつくる

日本の食卓に並ぶ魚は、約70%がスーパーマーケットで販売されています。次世代に豊かな海の生態系を残すため、グリーンピースは2011年から大手スーパー5社(イオン、イトーヨーカドー、ユニー、ダイエー、西友)に「持続可能な調達方針」の策定と実行を求め、絶滅危惧種や乱獲された魚を取り扱わず、十分に資源管理された魚を取り扱うよう交渉を続けています。

2月、イオンは、急速な資源減少が危惧される水産物についての取組策を含んだ水産物調達方針を発表しました。業界最大手の同社が違法漁業や過剰漁業を排除する調達原則を発表したことは大きな一歩です。しかし、一層の具体性も必要です。



6月には、国際自然連合(IUCN)は絶滅が危惧される生物を分類した「レッドリスト」の最新版を発表し、ニホンウナギが登録されました。それに先立ち、グリーンピースはスーパー大手15社にウナギの仕入れ基準をアンケート調査し、回答を得た12社全社がニホンウナギを主力商品にすえていることがわかりました。さらに、7月には同15社の店頭で販売されているウナギ商品でDNA検査を抜き打ちで行い、14社17商品の内4社4商品で企業からの回答と検査結果に不一致が生じ、種を正しく把握しないままウナギ商品が販売されていたことも突き止めました。

また、「第三のウナギ」と呼ばれるビカラウナギの流通実態を把握するため6月にインドネシアでフィールド調査を行いました。同種が資源管理のないまま、日本の需要増加に



©Greenpeace/Gavin Newman

よって乱獲状態にあると判明したと同時に、東京大学海洋研究所の青山潤教授の協力のもとウナギの生態を分かりやすく説明する動画も公開し



ました。太平洋クロマグロについても、WCPFC(中西部太平洋まぐろ類委員会)北小委員会などに参加し、8月に行ったWWFジャパン、ヒュー・チャリタブル・トラストとの共同会見では、加盟国・地域に向けて同種について緊急的な保全措置を取るよう訴えました。同時に、紀伊勝浦の元漁師、築地の仲卸店主などのステークホルダーに聞き取り調査を行い、乱獲を問題視するだけでなく、消費者とともにサステナブル・シーフードの需要を作ることの必要性を訴える動画も作成しました。

5月には新署名『おさかな貯金』を開始しました。「おさかなを、ためて、増やして、食べながら、つなごう子どもたちに!」を合言葉に、サステナブル・シーフードへの賛同メッセージを集め、大手スーパーの上記5社に消費者の声として届ける活動を始めました。また、9月にはスマートフォンアプリ『グリーンお買い物ガイド〜お魚編〜』をリニューアル。使いやすさを一新するとともに、全33種の魚介類の持続可能性と環境負荷を検索できるようにしました。



オンライン署名『おさかな貯金』(上)



スマートフォンアプリ「グリーンお買い物ガイド〜お魚編〜」(右)



消費者の想いがマーケットを動かす瞬間を目撃した1年

小松原和恵(海洋生態系担当)

イオンとイトーヨーカドーが相次いで調達方針を導入。国際管理機関も30kg未満の太平洋クロマグロの漁獲規制を決定しました。消費者の声が市場や行政を変えた記念すべき第一歩です。グリーンピースは更なる改善を求めてスーパーマーケットや行政に働きかけていきます。

Food for Life

ミツバチ、環境、そして人間にも悪影響のある ネオニコチノイド系農薬の禁止を求めて



2013年12月、欧州連合(EU)でネオニコチノイド系農薬3種(クロチアニジン、イミダクロプリド、チアメトキサム)の一時禁止がはじまりました。この農薬は、世界中で起きているミツバチの大量死の一因といわれており、今回のEUの決定は、ネオニコチノイド系農薬が農作物の受粉を助けるミツバチに対して有害性があると明らかになったことから実施されました。

また同月、欧州食品安全機関(EFSA)は、ネオニコチノイド系農薬のアセタミプリドとイミダクロプリドの2種類について「低濃度でも人間の脳や神経の発達に悪影響を及ぼす恐れがある」との見解を発表しました。

世界中で進む脱ネオニコチノイド。 それに逆行する日本

ミツバチにも人にも悪影響を与える恐れのある農薬。ヨーロッパをはじめ、韓国、中国、アメリカなどでも危険性が危惧され、なにかしらの規制強化が進んでいる中、日本では、真逆の決定がされそうになっていました。厚生労働省はネオニコチノイド系農薬クロチアニジンの食品への残留基準を大幅にゆるめようと、規制緩和の動きをみせはじめました。



そこでグリーンピースは2014年1月から緊急オンライン署名を開始。約1カ月の間に1万2千筆を超える署名が

あつまり、厚生労働省などに提出しました。また、厚生労働省が募集したパブリックコメントでは、異例の1600件余りの意見が集まり、1件を除いた全てが反対。このような市民の反対の声を背景に、規制緩和に待ったがかかり、厚生労働省は再審議を決定しました。

ネオニコチノイド系農薬を 知ってもらうために

ネオニコチノイド系農薬の影響を多く受けるミツバチは、花から花へと移って花粉を運び、私たちの食べる農作物の生産を世界中で支えてくれています。グリーンピース・ジャパンでは食と農業問題の一環として「bee my friend」キャンペーンを2014年4月から本格的に展開し、ネオニコチノイド系農薬の危険性を訴えながら、毒性の強い農薬の使用を減らし、有機農業への転換により、食の安全と持続可能な農業の促進を求めて活動を開始しました。そして、ミツバチの大切さ、同農薬の危険性をより多くの方に知ってもらうために、リーフレット「みつばちをまもること＝畑とごはんをまもること」製作し1年間で8万部以上を配布しました。



©Greenpeace/Tatsuyo Uchida

■ 主な発行物 / 報告書



レポート
「消えるハチ」



レポート
「滴る毒」



レポート
「花と毒薬」



リーフレット
「みつばちをまもること＝
畑とごはんをまもること」



動画
「【暴露】世界中で起きている
異変を徹底解剖!
その証拠をお見せしましょう!」

消費者の声は なによりも強い味方

成澤薫(食と農業担当)

グリーンピースは、農薬を大量に必要とする工業的な農業からの脱却と、食の安全と持続可能な農業の促進を求めてこれからも活動を続けています。実際に社会を変えるのは消費者の声が一番の力となります。

Save The Arctic

『北極を保護区に』
—600万の署名が持つ力

2011年から始まった壮大なグローバルキャンペーン。北極を石油開発、漁業・資源開発競争から守り、北極の公海域を保護区にするため、これまで600万人が署名に参加しています。



©Greenpeace/Michael Nagle



©Michael Nagle/Greenpeace

9月の気候変動サミット前には、グリーンピース・インターナショナル(本部)事務局長のクミ・ナイドゥがニューヨークの国連本部を訪れ、パン・ギムン国連事務総長に北極の氷が溶けた600万滴の水を手渡し、北極の長期的な保護を訴えました。

10月には、ブロックでおなじみのレゴ社が、50年続いた大手石油会社シェルとの業務提携を終了しました。シェルは資源調査のための掘削を北極圏で再開しようとしています。グリーンピースは「メキシコ湾で起きたような原油流出事故が北極圏で起きれば、厳しい環境での復旧作業は困難」と環境への影響が甚大であることを指摘。



そしてレゴのブロックを使って、北極圏での原油流出による環境破壊の恐れを動画で公開したところインターネットで広まり、約100万人の人がレゴ社に対してシェルとの提携をやめるよう署名しました。



ロンドンの気候変動デモには、デザイナーのヴィヴィアン・ウェストウッド、女優のエマ・トンプソン、ミュージシャンのピーター・ダブリエルも参加
©John Cobb/Greenpeace



©Greenpeace/Abram Powell

Forests

「森に優しい企業」はどこ？ 森林破壊ゼロ方針の導入を

世界一の速さで失われるインドネシアの森。絶滅が危惧されるスマトラトラはおよそ400頭まで減ってしまいました。楽園の森を守るため、グリーンピースは「森にやさしい企業/やさしくない企業」を2月に発表し、「森林破壊ゼロ方針」の導入をグローバル企業に求めました。2月にはプロクター & ギャンブル (P&G) のパーム油原料調達先がトラやオウタン



©Ulet Ifansasti/Greenpeace



©David Sorcher/Greenpeace

ンウタンの虐待をしていたことをレポートで発表。「森にやさしくない企業」にランクされた同社CEOに宛てて、「森林破壊で作られた商品は嫌だ」とメッセージが送れる特設サイトを世界中で公開し、メールは40万通を超えました。そして4月、同社は2020年までに森林破壊をゼロにすることを発表しました。

国内では7月、グリーンピースとの1年にわたる協議を経て、アジア企業として初めて花王が「2020年までに、森林破壊ゼロで作られた、パーム油と紙のみを購入する」と約束しました。

People Power

ピープルパワーとは？ 一ひとりひとりが社会を変える“ヒーロー”

グリーンピースは、企業と交渉したり、国際会議で各国政府に対して政策提言をしていますが、最も大切にしているのは、一般の市民が持つ力、“ピープルパワー”です。環境問題解決のための活動に参加するひとりひとりが、社会を変えるための中心的存在であり、“ヒーロー”であると考えています。



ラナーナ・チア
(グリーンピース・ジャパン
プログラム・ディレクター)



オンラインでも広がるネットワーク

世界の各事務所がウェブサイトとソーシャルメディアを使って情報発信や、コミュニケーションをとっています。グリーンピース・インターナショナルのFacebook「いいね!」数は215万人。グリーンピース・ジャパンのFacebookも5万人、Twitterでは2万人の登録者となり、今後ますますオンラインでのつながりが広がっていきそうです。

Positive Change, through Action, Together

グリーンピースの活動に参加する



ボランティア・インターン活動

2014年も多くのボランティアやインターンの皆様がグリーンピースの活動を支援してくださいました。学生や社会人など様々な方と共に、同じく環境保護活動に興味を持つ仲間と交流を深めながら、問題を知り、広め、社会を変える活動に参加いただきました。

イベント活動

3/8(土)・9(日)	Peace on Earth ステージ(東京・日比谷)
4/26(土)・27(日)	アースデイ東京(東京・代々木)
7/12(土)・13(日)	Oceans People(東京・代々木)
7/26(土)・27(日)	ブルー・シーフード・フェスティバル(東京・六本木)
8/2(土)・3(日)	ハチミツフェスタ(東京・銀座)
11/22(土)	怒れる女子会(共催、東京・御茶ノ水)

メディア掲載活動

■ 原発・エネルギー問題

『東京新聞』(3月4日)、『週刊金曜日』(3月7日)、『東洋経済』(3月10日)、『Bloomberg』(4月21日)、『Tokyo MX TV』(5月17日)、『MBC南日本放送』『KKB鹿児島放送』『KTS鹿児島テレビ』(6月10日)、『南日本新聞』(6月11日)など鹿児島地方メディア多数。

※クミ・ナイドゥ グリーンピース・インターナショナル事務局長意見記事「原発事故から3年 日本にエネルギー革命を」(河北新報、岩手日報、徳島新聞、佐賀新聞)

■ 持続可能な漁業

『週刊金曜日』(2月5日)、『波通』(2月28日)、『オルタナWEB』(7月10日)、『毎日新聞』、『週刊女性』(7月29日)、『NHK NEWS WEB』(8月29日)、『サンケイ Biz』『フジサンケイビジネスアイ』(9月1日)、『オルタナ(雑誌)』(9月10日)、全国紙・地方紙多数。

■ 食と農業

『オルタナ』(1月20日)、『毎日新聞』(2月3日)、『朝日新聞』(2月15日)、『週刊金曜日』(2月25日)、全国紙・地方紙多数。

■ 企業への働きかけ

森林問題: 『日経エコロジー』(5月8日)、『国際商業』(8月7日)、『東洋経済オンライン』(11月7日)。有害化学物質: 『織研新聞』(12月1日)

■ 秘密保護法

『東京新聞』(12月11日)

■ 「北極を保護区に」キャンペーン

『読売新聞』(9月29日)、『ハフィントンポスト』(10月12日)



グリーン・ウィメンズ・ネットワーク 女性がつながり変えていく

各地に点々とちらばっている同じ想いの女性たちがつながって、線となり束になって大きな声を政府、企業に届け、環境問題を解決に導くこのネットワーク。2014年は登録者数が約300人となりました。国際女性デー(3月8日)には環境保護活動家でカナダ出身のセヴァン・スズキさんから力強いビデオ・メッセージをいただきました。また、ウェブマガジン『マガジン9』には日本各地で活躍する原発・自然エネルギー促進の担い手や女性首長などのインタビューを連載、11月には『マガ9学校:怒れる大女子会〜もういい加減にして「オッサン政治」!』をマガジン9と共催し、参加者がそれぞれの思いを共有する場となりました。

【ボランティアの方々の声】



水野さん(2011.8月からボランティア開始)

イベントやニュースレター封入のお手伝いをしています。原発やミツバチ減少など、市民に直接関わる問題に取り組んでいることに賛同しています。今後もっと大きな社会運動になってほしいと願っています。



川名さん(2012.3月からボランティア開始)

イベントに参加することで他団体や一般の方々が原発再稼働問題を懸念・反対していることを知ることができました。原発などの難しい問題をやさしい言葉やイラストを用い、誰にでも分かりやすく情報発信しているところが素晴らしいと感じています。

Finance

2014年度 会計報告

グリーンピース・ジャパンの2014年度(1月から12月期)における財務報告書はグリーンピースの国際的な基準により作成され、国内において監査法人五大により会計監査を受けたものです。

2014年度は、グリーンピース本部だけではなく、支部からも資金的な協力を得て原発に関連するエネルギー問題など国際的な課題に取り組みました。それにともない全体の収入、支出ともに6千万円程度の増加となり、より幅広い環境保護活動を行うことが可能になりました。

なお、収支は122万円のマイナスとなっています。これは、グリーンピース本部の方針に基づき非営利団体として内部留保をできるかぎり減らすために活動を拡大した結果で計画的なものです。

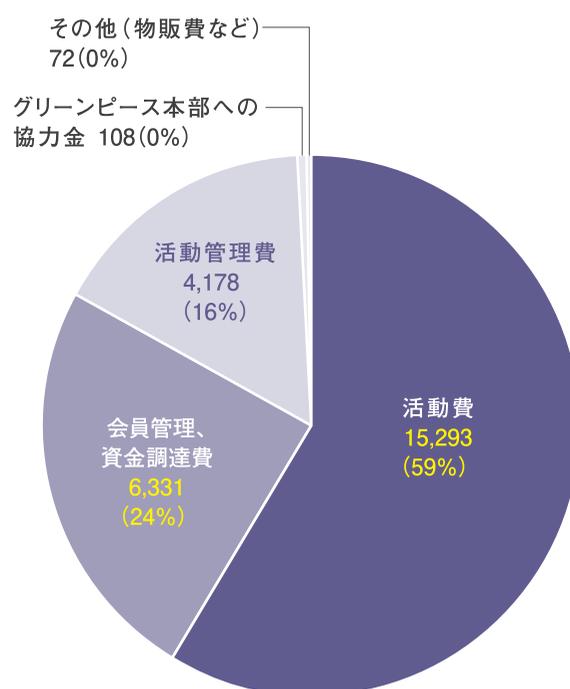
収支計算書(自2014年1月1日 至2014年12月31日)

収入		(単位:円)
寄付収入	158,924,149	
グリーンピース本部からの補助金	85,139,900	
グリーンピース他支部からの補助金	13,338,123	
その他収入	475,500	257,877,672
支出 ※別表参照		
活動費	152,926,240	
会員管理、資金調達費	63,307,568	
活動管理費	41,779,936	
グリーンピース本部への補助金	1,078,000	
その他(物販費など)	721,789	259,813,533
活動収支		-1,935,861
活動外収入		
受取利息	4,190	
雑収入	840,034	844,224
活動外費用		
為替差損	66,302	
税引前収支	-1,157,939	
事業税	70,000	
税引後収支		-1,227,939

貸借対照表(2014年12月31日現在)

資産	(単位:円)
流動資産	52,588,800
固定資産	112,218
投資及びその他資産	3,443,306
資産合計	56,144,324
負債	
流動負債	34,335,902
固定負債	243,445
負債合計	34,579,347
正味財産	
期首正味財産	22,340,805
その他有価証券評価差額金	452,111
欠損金	-1,227,939
期末正味財産	21,564,977
正味財産合計	21,564,977
負債及び正味財産合計	56,144,324

2014年 活動費・管理費の内訳 単位:万円



グリーンピース・ジャパン 概要

【名称】 一般社団法人 グリーンピース・ジャパン

【所在地】 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-13-11 NFビル2F

【設立年月】 1989年4月

【代表者】 代表理事／青木陽子、細川弘明 事務局長／佐藤潤一

【事業対象分野】 地球環境保護（気候変動/エネルギー／原子力問題、海洋生態系保護、遺伝子組み換え問題、有害物質問題、森林問題等）

【活動対象範囲】 全世界

【組織の目的】 地球規模の環境破壊を止めること

【具体的な活動手法】

- 環境破壊の実態を科学的に調査・分析し公表
- マスメディア、市民メディア、会員への情報提供
- 環境破壊を止めるための行動の呼び掛け
- 環境破壊の現場に行き、抗議活動
- 環境問題を解決に導くための代替案の提示
- 政府・企業などへの提案・要請
- 国際条約の交渉過程を監視、提言

【方針】 非暴力行動・政治的中立・財政的独立

【会員】 約5,000人(国内)、約280万人(世界全体)

【事務局】 国内有給職員 30名（うち、時間給制職員1名）

【本部所在地】 オランダ・アムステルダム(日本を含む世界40以上の国と地域に事務所。有給職員約2,400名)

【ホームページ】 www.greenpeace.org/japan

【SNS】 Twitter: @gpjTweet Facebook: www.facebook.com/GreenpeaceJapan

世界に広がるグリーンピース



●グリーンピース・インターナショナル(本部 オランダ・アムステルダム)
リーガル(法律)ユニット(ベルギー・ブリュッセル)

- グリーンピース・オランダ
- グリーンピース・ベルギー
- グリーンピース・ルクセンブルグ
- グリーンピース・UK
- グリーンピース・フランス
- グリーンピース・ドイツ
- グリーンピース・スイス

- グリーンピース・北欧
デンマーク／ノルウェー
フィンランド／スウェーデン
- グリーンピース・ギリシャ
- グリーンピース・イタリア
- グリーンピース・スペイン
- グリーンピース・チェコ
- グリーンピース・ロシア

- グリーンピース・中欧／東欧
オーストリア／ブルガリア／クロアチア
ハンガリー／ポーランド／ルーマニア
スロヴァキア／スロヴェニア

- グリーンピース・地中海
イスラエル／レバノン／トルコ
- グリーンピース・アフリカ

- グリーンピース・メキシコ
- グリーンピース・ブラジル
- グリーンピース・アルゼンチン
- グリーンピース・チリ

- グリーンピース・アメリカ
- グリーンピース・カナダ

- グリーンピース・東南アジア
インドネシア／フィリピン／タイ
- グリーンピース・インド

- グリーンピース・ジャパン
- グリーンピース・東アジア
北京／香港／台北／ソウル

- グリーンピース・オーストラリア・パシフィック
オーストラリア／フィジー
バブア・ニューギニア／ソロモン諸島
- グリーンピース・ニュージーランド

■ ご支援のお願い

グリーンピースは、グリーン(緑豊か)でピース(平和)な社会を実現するため活動する国際環境保護団体です。環境保護を願う市民の立場で活動するため政府や企業から資金援助を受けず、個人の方(サポーター)からのご支援によって活動しています。サポーターは世界に約280万人いますが、日本ではまだ約5,000人です。ぜひ、グリーンピースの環境保護活動をご支援ください。

詳しくはWEBで

グリーンピース 寄付

検索



リニューアル



グリーンピースの主な活動

